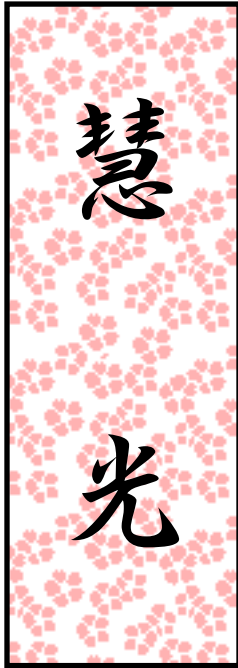




▲ 愛らしい菖蒲の花 (5月3日撮影・尾宮和子家にて)



金光寺寺報
第215号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
☎ 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば
十方の如来は 衆生を 一子のごとく 憐念す

今月のことばは、親鸞聖人の『浄土和讃』のなか、「勢至讃」のご文からです。「超日月光この身には 念仏三昧をしへしむ 十方の如来は衆生を 一子のごとく憐念す」

親鸞聖人は、二十九歳のときに、京都にある六角堂で救世観音菩薩のお告げを受け、比叡山を下りられました。そして、法然聖人(源空)のもとで阿弥陀仏の喚び声である名号(南無阿弥陀仏)のはたらきによって自身が仏と成っていく道を、ひとすじに聞いていかれました。

勢至讃の末には「源空聖人御本地なり」と示され、親鸞聖人は、師・法然聖人を勢至菩薩がこの世に生まれ出でられた方であると受け止められておられたのです。だからこそ、法然聖人のもともとのお姿である勢至菩薩を、『浄土和讃』の結びで褒め讃えられておられるのでしょ。勢至菩薩に念仏を教えられた

のが阿弥陀さまでした。阿弥陀さまから勢至菩薩へ、勢至菩薩が源空聖人として生まれ出でられ、親鸞聖人へと念仏の教えは伝えられたのです。

親鸞聖人は、法然聖人からお念仏の教えをひとすじに聞いていかれ、その教えを生涯大切に受け止めていかれました。そして、法然聖人から受け取られたお念仏は、よくよく案じてみるならば、阿弥陀さまのおはたらきによっているのだと受け止められました。それは、すべての衆生を照らす日光・月光を超えるような智慧の光であるとともに、衆生一人ひとりを「一子のごとく憐念」し、ひとり子を哀れ慈しむような仏さまの大いなる慈悲のはたらきとして受けとめられるのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載 『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- ◎ 5月 21日(火)～24日(金) 27日(月) 終日
- ◎ 6月 10日(月) 終日 14日(金) 終日 18日(火) 終日 20日(木) 終日 23日(日) 終日
- ◎ 7月 5日(金) 終日

2019年4月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2019年4月9日	満84歳
本屋敷 花田 スヅ子 様	
2019年4月23日	満96歳
道の上 緒方 テイ子 様	

ホームページ開いています。

URL <https://konkouji.jp/>

5月8日現在アクセス数 88,383人

しはでてさ十月月らご遠る月そでとり下ゴのせを回おにら申西い忌とま
たこしくす日たのた六縁方くのう法めまの1かんフ忌亡なはし暦のの九し新
かのたれが連も法も月はから秋あ務まし交ルも。ル計くら平訳派で計十たし
?連。なに続の事のの二らい参りをした替デし認回算なれ成なで私算四ねい
休疲いそにでを、ご件おでりまつた。にんれ知転でりたのいすはを年。元
(いれかろなしおも法で帰すやせと。私伴ウま症し、に方時の。どすに今号
かまなそった繰う事しり。恩んめ普はコイせのな衰な、代で元ちるな年「
がしとろた。りおをたにこ講。る段連て1ん予けえら昭にす号らのりは令
おた思連のた越ひ取。なの十こ、日十クが防れつれ和おが派かにま昭和
松井。つ休でましとりおら連時月と十法連は▼にばつたの亡!のとやす和
ご皆た終すたに方寄ひれ休期、は日務休天今はなあ方時くこ方いや。に
卓しさこわがまなはせとて中に十そ連をに皇年いりるの代なれにうこ年す
郎)でんとっ、`ら一れ方の、あ一う続つな陞のいま頭年にりかはとし回る

仏教名言ノート

顛倒上下は無常の根本

平成十五年、日本人の平均寿命は、女性が八五・三歳、男性が七八・四歳で過去最高となり世界一。百歳以上の老年寄りは二万人を超えました。おめでたいことです。もうすぐ百歳というおじいさんに、「今まで生きてこれられて、一番しんどかったことは何ですか」と聞いたら、「若い者が先に死んでいくことだ」という

答えが返ってきました。奥さんもお子さん夫妻も、先に亡くなったのだそうです。長寿社会の持つ根本的な悲劇かもしれませんね。「顛倒上下は無常の根本」「この言葉は『無量寿経』にあります。「顛倒上下」は、ここでは「老少不定」のことで、老人が先に死に、若者が後に残ると決まったものではない、寿命には順序がないという意味です。『無量寿経』は、「生まれ変わりに変わりして、絶えることのないのが世の常である、あるいは親が子を亡くして泣き、あるいは子が親を失って泣き、兄弟夫婦も互いに死に別れて泣き

あつ。老いたものから死ぬこともあれば、逆に若いものから死ぬこともある。これが無常の道理である」と説いています。お年寄りはよく、「逆さは見たくない」といいますが、そういう願望と無常の道理との間に悲劇が生まれるのです。しかし中には、「世の中に、逆さごとがあつてよし、順にいつては、こちらがたまらん」と宣ったご仁もいたとか。九月第三月曜日は、敬老の日です。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと